

普及センターだより

耕耳苑

第180号

宮古農業改良普及センター

TEL: 0193-64-2220

FAX: 0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL: 0194-22-3115

FAX: 0194-22-2806

いわてアグリベンチャーネット

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

第12回全国和牛能力共進会～5年に1度の熱き戦い～

令和4年10月6日～10日の5日間において、全国の優秀な和牛が一堂に会し、改良の成果や優秀性を競う全国和牛能力共進会(通称“全共”)が、鹿児島会場で開催されました！全共で優秀な成績を収めることは各都道府県の和牛ブランド力の向上につながることから、和牛関係者にとっては最も重要な大会です。

今大会は、過去最多の41道府県から参加があり、合計439頭出品されました！また、一般客含め、5日間で30万8千人の来場があり、会場は声援と緊張で包まれました。その中で、チーム岩手は一丸となって互いを励ましあい、闘志を燃やしながら大会へ挑んだ結果、岩手県から出品された牛は、数々の優秀な成績を収め、長年の改良の努力が発揮されました！

次回は5年後の2027年(令和9年)に北海道で開催されます。今大会で出場された出品者と出場牛においては次の大会でも上位入賞を目指し、関係機関共々引き続き支援していきます！おめでとうございます！！そして、お疲れ様でございました！！

【担当：姉帯】

区	成績	出品者	備考
特別区	優等賞3席	水沢農業高校	高校・大学の部
第1区	優等賞3席	種山畜産研究室	若雄の部
第2区	優等賞9席	佐々木和時美(岩泉町)	若雌の1
第3区	優等賞13席	栃元慎治(久慈市)	若雌の2
第4区	優等賞9席	高橋政吉(花巻市) 高田泰義(宮古市) 工藤ミエ(岩泉町)	繁殖雌牛群
第5区	優等賞6席	工藤ミエ(岩泉町)	高等登録群
第6区	1等賞1席 種牛群：優等賞4席 肉牛群：15位	【種牛群】 高橋浩司 岩淵孝幸 渡辺 功 菊地善明 【肉牛群】 (農)熊谷畜産 (株)たかはし牧場 高橋清文	総合評価群



第2区



第3区



第4区



第5区



令和5年産「銀河のしずく」の作付募集

令和5年産「銀河のしずく」の作付募集が始まりました。いもち病に強く、倒れにくい
ため栽培管理がしやすく、品質・食味も優れており、宮古管内における作付面積は増加中
です（令和4年産は31ha）。作付けを希望する方は下記報告先までご連絡ください。

(1) 受付期間：令和4年10月3日（月）から12月16日（金）17：00まで

(2) 主な作付要件

- ・ 作付水田が栽培適地にあること（詳細は普及センターまでお問い合わせください）
- ・ 前年の主食用米の作付面積が概ね30a以上であること。
- ・ 農産物検査で過去2年間（令和2～3年）の1等米比率の平均が（95％）以上

(3) 報告先

J A 出荷者	個人販売をされている方
新岩手農業協同組合 宮古営農経済センター T E L : 0193-69-3220	宮古市 T E L : 0193-68-9094 山田町 T E L : 0193-82-3111

【担当：小野】

秋冬期の施設野菜における農薬適正使用について

秋冬期の施設栽培葉菜類では、農薬残留基準の超過が発生しています（下表参照）。以下の
事項を必ず実施し、農薬の適正使用に努めましょう。

- ・ 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認したう
えで使用し、農薬の使用記録を残しておくこと
- ・ 農薬散布器具、収穫容器、農作業用具等の洗浄不足がないか点検すること
- ・ 農薬の飛散防止や前作に使用した農薬の土壌残留による影響にも十分に注意すること

【表 県内産農産物における農薬残留基準値超過の事案（一例）】

【担当：小原】

年度	時期	作物	検出成分	検出濃度 (ppm)	基準値 (ppm)	原因	備考
令和 2年	5月	ほうれんそう (施設)	殺虫剤成分 (エトフェン プロックス)	0.18	0.01	<u>適用外使用</u> (ほうれんそうに適用の ない殺虫剤を使用)	・ 保健所からの回収命令 ・ 回収命令対象外の出荷物の自主回収 ・ 出荷を中止
平成 24年	12月	しゅんぎく (施設)	殺菌剤成分 (フェンバレ レート)	1.23	0.50	<u>散布器具の洗浄不足</u> (他 作物に使用した農薬が残 存していた)	・ 保健所からの回収命令

新採用職員紹介



10月から新たに1名の新採用職員が配属
されました。どうぞよろしくお願ひします！

氏名 戸田 諒
(とだ りょう)
役職 技師（農学）
趣味 散歩



～抱負～

前職では農機メーカーの営業を務めてい
ました。景観が美しくおいしい食べ物がた
くさんある宮古に勤務できてうれしく思っ
ています。宮古の農業振興をお手伝いでき
るよう、日々皆様と共に頑張っていけます。
よろしくお願ひ致します。

土壌診断をしましょう

作物の「施肥基準」は、収量・品質を確保可
能な標準的な施肥量を示しています。土壌養分
の過不足があると、基準通りの施肥では生育が
不足する場合や、過剰施肥による肥料コストの
増加、病虫害の発生助長、品質低下を招く場合
があるので、土壌診断で土壌の養分状態を判断
することは重要です。

秋には作物の収穫が終わり、農作業がひと段
落すると思いますので、土壌診断を実施しまし
ょう。

【担当：千葉安】

～編集後記～ 耕耳苑180号をお読みいただきあ
りがとうございます。本号が今年最終号となりま
した。気づけば山も色づき、寒い日も増えてきま
した。食欲の秋ですので、(体重は気にせず、)た
くさん食べて、体調管理に気を付けていきましょ
う！次号は令和5年1月発行予定です。(千葉安)